すが、何も言わず通り過ぎる子もいます。

そんなある日、子ども会の行事として、ふれあい囲碁で交流しました。その次の日のことです。何と登校中の子どもたちが、夫人に向かって「おはようございます！」と次々に声をかけてくれるのです。それまでの10年間、子どものほうから声をかけてくれたのは、その日が初めてだったそうです。

また、こんな例もあります。長期入院していたため、すっかり気力も体力も失ってしまった年配男性が、たまたま地域の小学校で行われた「ふれあい囲碁交流会」に参加したところ、子どもたちから通りすがりに「こんにちは」と声をかけられるようになり、みるみる元気を取り戻していきました。

防犯ボランティアのみなさんと子ども会の交流で自然と顔なじみに

地域社会には、赤ちゃんからお年寄り、障碍のある人も外国人も、みんながいっしょに暮らしています。ところが転出入の激しい都市部では、人間関係は加速的に寸断されていますし、逆に過疎地域では、お互いに知りすぎて息苦しいといった悩みもあります。

ふれあい囲碁は、地域に住む、あらゆる人が参加します。そこで、「遠すぎず、近すぎず」の距離感を体験し、安心感に結びついたとき、自然なあいさつが引き出されてくるようです。

このように、日常生活の中で自然にあいさつの交わせる人間関係が出来ると、時間とともに関係は熟成され、安心感がやがて心地よさに変化するようです。そして、実はそのこと自体が、地域づくりの最終目標であり、ふれあい囲碁の優れた効果であると、私たち（ふれあい囲碁の実践者）は考えています。

一度心地よい人間関係が出来始めると、その地域は元気になっていきます。例えば、都市部で新旧住民が仲違（なかたが）いしていたある地域では、ふれあい囲碁をきっかけに人間関係が再構築され、一度は廃止された地域の祭りが復活したところもあります。あるいは、火の用心の夜回りを数人で行っていた自治会では、ふれあい囲碁をきっかけにして人間関係が広がり、参加者が加速的に増えたそうです。それとともに空き巣などの犯罪被害が減った例もあります。

つまり、「ふれあい囲碁を活用した地域づくり」とは、子育てや介護、防犯といった個別のテーマに対応するのではなく、結果として、さまざまなテーマの課題解決に結びつくよう、地域社会を根本的に元気にしていくことが目標なのです。

第２章　大分県内の歩み

1.　ＮＰＯ法人へ

ふれあい囲碁の活動は全国各地に広がっていますが、大分県内では1999年、当時、囲碁を教育に活用する運動の一環で“囲碁遊び”を普及するボランティア活動として出発しました。

活動の担い手は囲碁のプロ棋士やアマチュア愛好家の方が中心で、主に幼稚園・保育園あるいは小中学校など、保育や教育の現場に“囲碁遊び”の導入を呼びかけ、また指導者として訪問していました。

囲碁はその歴史が3,000年とも4,000年とも言われており、はるか古代から、コミュニケーションの手段として使われてきたそうです。そこで「囲碁の特性は、子どもの教育にとどまらず、社会全体の人間関係づくりに活かせるのではないか」と唱える実践者を中心に、“囲碁遊び”の普及とは別に、コミュニケーション・プログラムを開発し、広く社会全体に役立てようという新しい流れが起きました。

この流れに呼応した教育や福祉の関係者や市民ボランティアの有志によって、囲碁の石取りゲームを基にしたプログラムづくりの実践研究が始まり、2002年、表現方法や間（ま）の取り方、進行方法など一連の形式が整いました。そして「ふれあい囲碁」と命名されました。

それに合わせ、大分県内の活動も「コミュニケーション・プログラムを活用した人間関係づくり」という目標を明確に掲げ、各地の活動に先駆けてＮＰＯ法人ふれあい囲碁ネットワーク大分を設立（2002年８月）、赤ちゃんからお年寄り、障碍の有無や国籍の違いも超えた人間関係づくりを進め、すべての人が安心して生活できる社会づくりに向けて活動を展開してきました。

活動メンバーは老若男女、多彩な顔ぶれです。高校生や会社員、行政職員、教員、施設職員や制度ボランティアなど、年齢も職業も活動分野も多種多様。人のつながりを大切に思い、人とのつながりを心地よいと思い、「人と人、心と心をつなぐ」ことに喜びを感じる人たちが集まり、それぞれのペースで活動に参加しています。

では、実際にどんなメンバーが参加しているのか、どんな活動を展開しているのか、ご紹介しましょう。

活動を通して

2. スタッフからのメッセージ

“受け入れる”を学ぶ

寺嶋 恵理（会社員）

「ふれあい囲碁」をするきっかけになったのは、会員の方の紹介でした。最初は善いことだからと何気なく参加していたのですが、続けていくうちに自分自身がいかにコミニュケーションがとれていないかに気が付きました。

今は、ふれあい囲碁の活動で今まで出会わなかった人と出会う中、ちょっとした優しさや笑顔にふれて私が元気をもらっています。「ふれあい囲碁」を通じて「受け入れる」ということを教えていただいたと思います。

大好きだから……

森下 紀代子 （自営業）

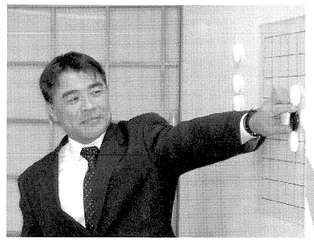
自分にとってのふれあい囲碁とは、 考えてみると二つのことが思い浮かびます。

一つは、 社会貢献としての活動意義です。 日ごろから、 何か社会に役立つことをしたいと念願しています。 それは、 私たちは、 社会のお陰によって、 衣食住を支えることができるからです。 それともう一つは、人間大好き人間の私には、 ほかの何物でもない 「ふれあい囲碁」 が大好きだからです。

個々に違う時間の流れ

村田 喜代志 （地方公務員）

短気だった私は、ふれあい囲碁との出会いによって個人個人の時間の流れが違うことを学びました。学んだと言うより体感しました。



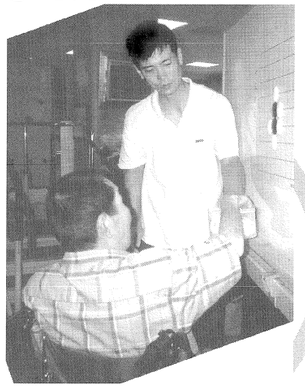
65歳以上のお年寄りを対象とした『ふれあい囲碁』や幼児を対象とした『ふれあい囲碁』そして、中学生を対象とした『ふれあい囲碁』それぞれでしていた時は、さほど感じなかったのですが、９月に行われた交流会では、みんなが一緒に『ふれあい囲碁』をすることにより、個々の時間の流れの違いが如実に現れました。しかし、その時間の流れを待っている人達を観て、私自身もおおらかな気持ちを持つきっかけとなりました。

今、あらゆる人間関係に待つこと、つまり相手を尊重することの出来るようになったこの『ふれあい囲碁』に感謝しています。

人と関わる自信が持てた

加納 雅彦 （高校教員）

この、活動の素晴らしさは、だれでもできる「ふれあい囲碁」を通して、一緒に活動をしてきた仲間、外国人、老人、障碍を持っている人、近所の子ども達など、普段の仕事だけでは関ることのない、いろいろな人と楽しい時間を過ごし、その後、お付き合いが続く「きっかけ作り」ができたことです。そして、活動前よりも、自分自身が他人と関る自信が持てたことです。



得られたこと

教訓となった交流会

安部 恭子(大分市保健所ヘルスボランティア)

大分市保健所が主催していた自立支援の健康教室で、私と「ふれあい囲碁」との出会いがありました。後に、安田泰敏先生との会に出席する機会を頂き、更に、関心を抱く様になりました。

平成18年９月に大分県総合社会福祉会館でのイベントの手伝いをさせて頂き尚更感動致しました。五体満足の身を持て余し、健康でいて当たり前としている自分には教訓になったのです。負い目を持ちつつも全力投球で対戦している姿が煌煌(こうこう)しくさえ感じました。「自力で勝を追求している」　まさに感動でした。

話を聞いて損はなかった

後藤 フミ子（民生委員児童委員）

知人の代理で会議に出席　谷川会長の「皆さん今晩は　第2回ふれあい囲碁実行委員会を始めます」の言葉に「エッ!?」鳩が豆鉄砲を……　衝撃を受け「私帰らせて戴きます」の言葉に　会長は「折角だから話を聞いてからでも」と私を促す話は聞いても損はないと拝聴する　老若男女　障害者健常者共に　楽しく集うゲームと理解　心が和らぐ

ハツラツとリングを繋ぎ　会長さんのアドバイスを仰ぎ　広げていこう実践の輪

時間を共有する大切さ学ぶ

村上 久子（福祉施設職員）

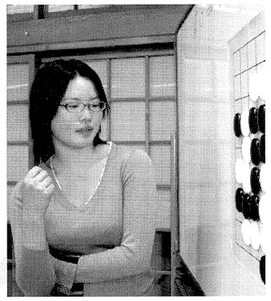
「ふれあい囲碁」との出会いは5年前。少しずつイベントや交流会に参加する度に時間を共有できることの大切さの意味を学んでいます。一般的に人間関係はその人と出会った瞬間から始まるものですが私も時々初めての人と会話するとき共通の話題を探すのにちょっと苦労したこともありました。

私にとって「ふれあい囲碁」は人とのコミュニケーションを助けてくれるツールでした。心が動き体が動く気づけばそこに笑顔が広がる仲間づくりに有効であると確信しています。

相手を思う気持ち

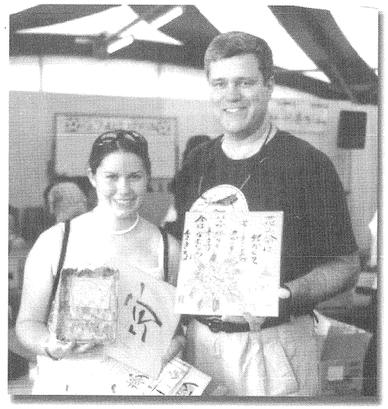
小川 菜奈美（家事手伝い）

ふれあい囲碁交流会に参加した時のことです。チームに分かれてルール説明の後、二組のチームがみんなの前に出てふれあい囲碁をすることになりました。



その一組のチームの中に、足の障害を持った男性と子供がいました。ゲームが始まり足の不自由な男性と子供のいるチームが勝ち、子供は嬉しかった様で走って自分のチームに戻ったのですが、足の不自由な男性はゆっくり戻っていたのです。

その時子供が気付いたのか、男性の元まで駆け寄り自分のチームまで、手を引いてあげたのです。私はそれを見て、ふれあい囲碁というのは相手のことを思う気持ちだと感じさせてくれました。



● 『OITA CITY KONNICHIWA！FEESTA』の思い出 ●

これは、2002年６月世界のスポーツイベントFIFAワールドカップ開催地の一つ、大分市主催のイベントです。大分城祉公園で、９日間開催されたこのイベントへの参加は、私たちにとって生涯忘れられない思い出となりました。

国内外からの観戦者に楽しんでもらうために、さまざまな工夫を考えました。その中でも一番盛り上がったのは、チーム戦で行う『サッカー囲碁』でした。グリーンの人工芝をフィールド碁盤とし、碁石にはサッカーボールの柄を書いたものを用意しました。

～思い出の一コマ～

アメリカ人の友人が、不登校で引きこもりの埼玉県在住、16歳の少年『タカ』を連れて来てくれました。アメリカ人の友人は、率先して人の輪に入り、イベントを楽しんでいました。一方タカの表情は、楽しいのか楽しくないのか分かりませんでしたが、暑いテントの中、一日中、期間中手伝ってくれました。日を追うごとにタカの硬かった表情は和らぎ笑みがこぼれる様になったのが嬉しい変化でした。この参加がきっかけになったのかどうか、タカは埼玉に帰るとすぐにバイトを始めました。それ以来社会人として、責任ある仕事をしています。

～全国からのプレゼント～

ふれあい囲碁の活動場所には、身障者施設・老人デイケアセンターなどさまざまです。海外旅行は難しくても『心の旅』は出来る。自分の作った作品を世界中へ発信してもらおうと考え、大分の活動施設、また全国のふれあい囲碁の仲間に呼びかけました。絵手紙や折り紙の簪、古布で作ったポーチなど、沢山の品が全国から寄せられました。プレゼントを受け取った外国人の方がお礼に書いてくださった手紙を届けると、とても感激してくれました。『離れていても心が通じる』そんな言葉が似合う瞬間でした。

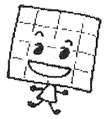
～イベントを終えて～

最初は、『ふれあい囲碁』を理解していなかったイベント担当者から「なぜ、子ども、外国人も大人も……」

この言葉は、まさしくふれあい囲碁の真髄なのではないでしょうか！

まさに“ONE　WORLD”であったと思います。

（森下 紀代子、 谷川 真奈美）



バンキー

思い出のアルバム

3.　活動紹介

これまでの活動のなかで、スタッフの心に残った事業を選りすぐってご紹介します。

ホワイキー

ブラッキー

ふれあい囲碁のマスコットキャラクターです!!

「福祉現場とふれあい囲碁」

これまで多くの施設のハンディキャップを持つ人達と「ふれあい囲碁」を通じて交流を続けて来ました。そして沢山の笑顔に出会うことが出来ました。

障害者のデイサービスでは未成年者から50歳代と幅広い年齢層で障害もみんな違います。当初は石をどこに置いてもＯＫと言う声かけに始まり　一人ひとりが碁石を好きな場所に置くことを続けて来ました。そのうちにだんだんチームの仲間から拍手が起こるようになり照れくささや固かった表情が和らぎ笑みが出るようになりました。

５年経った今ではそのつどルールを仲間同士で決め　対戦というより時間を共有し一つのものを作り上げるといった雰囲気で力強ささえ感じます。

また高齢者の施設では入所者やデイサービスで車椅子の人や認知症の人達がほとんどです。そこでは近隣の幼稚園の子供たちと「ふれあい囲碁交流会」を継続しています。子供たちは何年もするとゲームの楽しみ方やおもしろさを知っていて始まるまでがもどかしいとばかりに「は～や～く」とコールがあがるほどです。↙

↙

しかし高齢者は何回繰り返しても初めてのような顔をして参加します。ある時　車椅子の人で歩行はおろか立つことさえ出来ないと思っていた人が白熱するゲーム中に子供の手を取り立とうとしました。回りの人達はすごく驚きましたが　心が動き　まさに体を動かしたことにみんな感動しました。

また認知症の人の中に徘徊が激しい人や落ち着かない人もいます。その中のＡさんは当初全くゲームや子供達に関心を寄せず　何回交流会をしてもいつもスタッフに見守られていましたが　ある日の交流会で驚くことがありました。子供達とお年寄りそしてスタッフといつものように会が始まったところに Ａさんが穏やかな顔をして碁石を置こうとしました。子供達はいつもと違うＡさんに戸惑いながらも にこにこしながら手をつないでいました。

Ａさんにとってはゲームの内容ではなく 何度となくふれあい囲碁の場がありそこに笑顔の子供達がいて心和むものがあったのでしょう。

非言語によるコミュニケーションで相手の気持ちが動いたり体が動いたり改めて人とのふれあい・つながりの大切さを感じ これまでに得た感動は財産だと思っています。今後益々沢山の人とのつながりを大切にしたいと思います。（村上 久子、大山ウキ子、寺島恵理）

ふれあい囲碁を活用した地域づくり事業 研修会

4. 助成事業

2006年度には、福祉医療機構の助成を受け、大掛かりな理解･啓発事業を実施しました。

まず、第一弾として6月25日、大分県総合社会福祉会館（大分市）において、地域づくりに関心を持つ人、仕事で関わっている人を対象にした研修会を開きました。

これは、9月の交流会実施に向け、様々な分野の方に、事業の趣旨を事前にご理解いただくためのものでしたが、内容の濃いアンケートの回答をたくさんいただき、とても充実した研修会となりました。

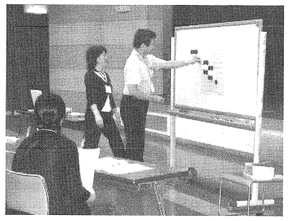
参加者（43名）

保健師（５名）　看護師（１名）
介護士（２名）　相談員（１名）
ボランテア市民活動コーディネーター（１名）
自治委員（１名）　保育士（１名）
医師（１名）　中学生（１名）
民生児童委員（２名）無職（３名）
大分県身体障害者福祉協会（１名）
大分県ボーイスカウト連盟（１名）
ケアマネージャー（２名）
福祉施設関係者（２名）
教員（１名）　地方公務員（１名）
会社員（１名）　ピアノ教師（１名）
地域包括支援センター社会福祉士（１名）
認知症を抱える家族の会（１名）
大分県フォークダンス連盟・大分臼杵レクリエーション協会（１名）
ＮＰＯ団体・ＰＴＡ役員（１名）
無記名（10名）

アンケート結果（抜粋）

●「自分の仕事（活動）に活かせると思いますか？」「活かせるとしたらどのように？」

・人と接する時に、一人一人を認めることができるよう寛大な気持ちで仕事をしていきたい。
・月１回の老人会の手伝いに参加しています。「ふれあい囲碁」で組織の活性化を図りたい。お役にたいたいとおっしゃる人は結構いらっしゃいます。そのような人を活動に参加させるのが難しい。自分に何も特技がないと悩んでます。
・以前、マンションの管理人をしていましたので、独り老人がすごく気になります。独り部屋に閉じこもる状態がありますので、今日頂いた囲碁を利用して訪ねてみたいと思います。
・正直、ゲームに参加するときは緊張しました。スピーディにゲームが進むので。でも、やはりゲームを介して周りの人と自然にコミュニケーションが図れる心地よさを実感することができました。
・自治会のお世話をしていますが「何か活用できそうだ」ということを実感しました。例えば、青少年健全育成協議会への応用。


初めは全員で模擬戦を体験します

・先ずは、身近な地域で実践していくこと。本日の参加者の中に「一緒にやっていきたい」という方がいたので、実現させる様に努めたい。
・仕事場で入所の高齢者の方と職員同士。今関係している地域活動での‘心をひらく手段として’ご近所の方々と。体験学習として施設を訪問してくれる小中学生と。
・帰宅後の学童の居場所つくりと高齢者の交流を図り、子どもの居場所＝高齢者の居場所、新しい行動、昔の智慧を受け継ぐ場

・保育の実践でやってみたい。そして、ＰＴＡの時、親子でゲームができたらいいかなぁ～と思った。
・地域でこんな活動をしていることを知らなかったからとても面白かった。知らない人と少し交流できたと思う。
・年齢、性別、ＡＬＤ状況などに影響されることなど一体感が生まれていると感じる。囲碁もそのような地域づくりの１つの手法として、有効であると思う。
・ゲームの展開等、大変勉強になりました。時間的なもの、人間関係ができていない状態でのゲーム（チーム作り）でも、大変楽しくできたことに感動しました。
・「世代間の交流」と、ずい分前から耳にしています。しかし実態は言葉だけです。「ふれあいって何」をあらためて感じました。笑顔の人と人がゲームの終了時に大勢でした。

・クラスをまとめる際、生徒が「個」のままでは、クラスとしてのまとまりのない互いにかかわりを持ちたがらない冷めた集団になります。都市部だけではなく大分市内でも小中学校現場では、授業中でも生徒が動きまわる、学級崩壊が目立ちます。教員・生徒だけではなく、保護者を巻き込んでいく（ＰＴＡ）具体策はなかなかみつかりませんが、その糸口としてふれあい囲碁が使えると再確認しました。
・活かせると思う。老人会長や福祉団体の人に実際にふれあい囲碁をしてもらい、その人自身に楽しんでいただく。

初めて出会う人同士でチームを組みますが、自然に温かい空気が生まれます

・地域のグループに健康教育に行った際や、地域づくりの事業に活かせたらなあと思いました。
・まちづくり系のコンサルといいながら、人間コミュニケーションの促進という点ではノウハウがないので、囲碁はいくらか有効かも？
・講師の、何でもありという言葉はとても心が楽になりました。そんな風に考えられる様に私自身がふれあい囲碁を通じて変われるといいと思います。

●今回の研修会で、今後地域づくりを進めるにあたり印象に残った内容をお書きください

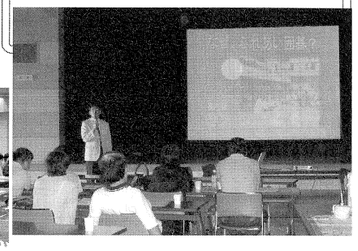
・表情が生き生きし、温かい感情が芽生えてくるところ（保健師）
・一人一人を認めてあげるということ（保健師）
・「地域づくり」難しいかも…でもなんとかなるかも…という気持ちになりました（ケアマネージャー）
・囲碁を活用して地域づくりふれあいの場、人間関係を円滑にしていけることが可能であると知り、子どもから高齢者まで幅広く交流出来る手段として今後役立てていきたい（介護士）
・自分の職場の中だけでなく、近隣の保育園や地域のお年よりとの交流に繋げていけるのではないかと思いました。（介護士）
・地域づくりが求められている現在、活動の場をつくるきっかけになると思いました。（相談員）

・講師の話で、ふれあい囲碁を通して他の活動が盛んになったり、犯罪が減ったりすることころまで住民のつながりが発展したことがとてもすごいと思いました。地域のつながりは大切だと改めて感じました（保健師）
・地域づくりを進める時、行政主導ではなく、対象を限定せず、住民と一緒に進めていくところが、一番効果的であること。またふれあい囲碁を通したきっかけにより、様々な人々の交流の橋渡しとなっていること（保健師）
・知り合いの職場の方々の広報で、大分県の地域関係が上手くいく様に人とのつながりができれば大分県も住みやすい、人間関係が温かい社会になるのではと思いました（身障者協会）
・子どもから高齢者まで、共通の話題が出来、なお心、行動面、地位、年齢、障害、健常者のバリアフリーを取り入れることができる。（民生児童委員）
・行政にたよるのではなく、地域の人たちが進んで行うことにより行政が動くことが大切。１人１人の意識が地域を動かしていくことを改めて感じました。（会社員）

・保健師は、保健師、教員は教員で一般に活動しますが、異職種の皆さんとの協働により、点が線にさらに面になることを再確認するとともに、小さな１歩を着実に積み重ねることが大切であると痛感しました。（教員）

・初めての人と会話はなくても眼をみて微笑みあえるような雰囲気が生まれたこと（福祉施設職員）
・みんなでルールづくりしていくことに意義を感じます。ゲームはルールに従うことを考えて教えていました。今後のゲームの視点としたいと思います。（レク会員）
・ふれあい囲碁がこんなに深いものだとは知りませんでした。地域づくりの方向性は、孤立の解消で新しい人間関係づくりといったことが印象に残りました。自分の仕事の中にも地域づくりはあり、結構地域づくりは好きな活動ですが、中々進めるにあたってしんどかったところもありましたが、一つの方向性の参考になったと思います（保健師）

ふれあい囲碁は、全国各地に実践の輪が広がっています。そのなかで、千葉県柏市では、2002年から行政の健康づくり・地域づくり事業にも取り入れて、様々な成果を上げています。柏市の実践者や行政職員の方々を講師にお迎えしました。



・関係づくりの難しさをとても感じていました。市民活動の分野が広がって、いろんな思いの方が参加しているので、全体の意思統一というか共通認識を持つことも難しい、どうしたらよいのかで悩んでいました。ふれあい囲碁があくまでも関係づくりのきっかけとして位置づけられ活動されているという点は、押し付けがましくなく、受け入れやすいと思いました。（ボラ市民活動コーディネーター）
・１歳児でもできる・・・！という事。（保育士）
・障害者が、地域に参加しやすくなる手段に使えればいいなと思いました（医師）
・生活していく中でルールや常識などが多くありますが、それにとらわれず楽しくできてよかったです（無記名）
・地域づくり＝仲間づくり＝笑顔で会話している（施設関係者）
・「なんでもＯＫ!」すべての人を人として認めること。再確認しました。（市職員）

・何かを一生懸命やった時に、どんなことでも良くできる！できる！もう少しに分かれてしまい、同じ趣味を持っていても何か意気消沈してしまうようなことになってしまいます。ふれあい囲碁もきっとそういう側面ももちつつ、その反応によりいろんな人のいろんなお人柄を知るきっかけを作ってくれることがわかりました。ご近所の人とやはり仲良く暮していく上で理解できるチャンスが少ないので、年令、性別etcを問わず考案されたこのゲームが役に立つことがわかりました。（ピアノ教師）
・地域づくりは(結果)人づくり。我々はどうしても経済的(活性化策や地元資源を活用した産品開発などによるまちづくり・・など)な面で地域づくりを考えますが、「豊かに暮らす」という、もう一つの内面的な部分（個人の心身の健康や人間関係など）においては、今回の研修でその必要性を感じました。（ＮＰＯ）

ドキュメント 9.9

2006年9月9日、「地域づくり 人づくり　ふれあい囲碁交流会・分科会」を大分県総合社会福祉会館で開きました。
赤ちゃんから高齢者、障碍を持つ人も、外国人も、地域社会に住むあらゆる人が集まりました。当日は250人の参加者で大賑わい。こんなに大勢なのに、なんだか家族のような温かい空気に包まれました。

横断幕を取り付けて、“いよいよ本番”の緊張感が走ります。

参加者全員の名札を用意しました。

参加者が次々と来場。この日に初めて会う人が多く、みなさん緊張気味。

実行委員長のあいさつからスタート。最初はルール説明と模擬戦です。

まずは団体戦。チームの仲間が声をかけ合って碁石を置きます。碁石は紙皿に色を塗ったり、絵を描いたりして作ります。

会場にいるすべての人が同時に参加できます。

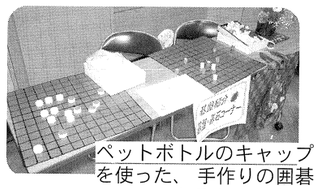
実は、この絵手紙を紙皿に書いて、絵手紙碁石を作ってくださる方もいらっしゃいます。

きょう同じチームになります。よろしくお願いしまーす。

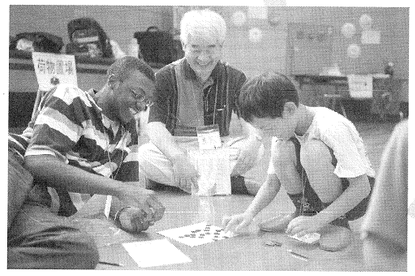
一列に並んで向かい合っていたチーム同士がくっついて、いつのまにか輪になってしまうんです。

団体戦のあとは個人戦に移ります。どんな組み合わせでも、同じようにコミュニケーションがはかれるのです。

この日は、３つのテーマごとに分科会もありました。ふれあい囲碁をどのように活用するか、活発に意見交換しました。



ペットボトルのキャップを使った、手作りの囲碁セットもあるんですよ。



事業名「地域づくり 人づくり　ふれあい囲碁交流会・分科会」
主催：NPO法人ふれあい囲碁ネットワーク大分(ふれあい囲碁を活用した地域づくり推進実行委員会)
後援：大分県、大分県教育委員会、大分県社会福祉協議会、大分県PTA連合会、大分県ボランティア連絡協議会、大分市、大分市教育委員会、大分市社会福祉協議会、大分市PTA連合会、大分市民生委員児童委員協議会、大分市青少年健全育成連絡協議会、大分市ボランティア連絡協議会、大分合同新聞社、朝日新聞社、毎日新聞社、読売新聞社西部本社、NHK大分放送局、OBS大分放送、TOSテレビ大分、OAB大分朝日放送、大分ケーブルテレコム、エフエム大分
ポスター・チラシ制作協力：別府溝部学園短期大学 服飾デザイン学科 グラフィックデザインコース

9.9 ふれあい囲碁交流会・分科会 アンケート集計結果

（参加 250 名中 190 名回答　回収率 76.0%）

【 設問１】 交流会に参加されたご感想をお聞かせください

楽しい	159
どっちでもない	20
その他	3
回答なし	8

【 設問２】 お気づきの点をご記入ください

・ 懐かしい
・様々な考え方があることに気付き講師の先生にはよいお話を聞かせてもらった
・ 熱気がある
・交流会が継続していけるようになったらよいと思う
・大変すばらしい会だったと思う
・コミュニケーションに大変役立つ
・よくわからない。 ふれあい囲碁は大人二人でも熱中できるのか？
・ルールがいまいち分かりづらい

【 設問３】 ふれあい囲碁が今後どのように役立つと思いますか？ （複数回答可）

地域社会での人間関係づくり	100
世代間交流	71
親子のふれあい	49
様々なイベントでの交流	43
知り合いを増やす	43
学校や施設、 職場での人間関係づくり	42
バリアフリーの理解啓発	27
回答なし	13

【 設問４】 あなたの所属は？

・民生児童委員 ・ＮＰＯ子供と親の相談センター大分相談員 ・行政 ・ライムライト ・ヘルスボランティア ・太陽の家むぎの会 ・保育士 ・子供の権利委員 ・市民活動センター職員 ・障害者 ・高齢者の権利委員 ・福祉施設勤務 ・ＰＴＡ関係 ・弁護士 ・学生

【 設問５】 「自分の仕事 （活動） に活かせると思いますか？」 「活かせるとしたらどのように」 とお考えですか？

・ボランティア活動で活かせると思う。
・多くの人が集まった時のアイスブレーキング。
・職場で交流に役立てたい。
・ふれあいサロンでしたいと思います。
・地域で公民館等を利用して、 高齢者と子供達のふれあい活動の一部として使えないだろうかと考えました。
・遊びの中で、 個人で時にはグループで。 いろんな子の “思い” “行動” を認めていきたい。
・障害の有無、 世代に関係なく人間の交流に活かせるのでは。
・いろんな方に紹介していったり、 自分自身がいろんな方と交流を図る時に使っていきたいと思います。
・地域の人との交流にぜひ使ってみたい。
・日ごろスポーツや行事に参加できにくい人でも、 気軽に参加出来るゲームとして活かせると思います。
・活かせると思う。 不安から安心への取り組みにしたらよいと思う。
・自分の活動の時は、 何を目的とするかで指導や助言が変化すると思います。
・福祉施設関係に勤務しています。 施設と地域との交流に活用できたらと思います。
・本年度より小中一貫教育になり、 現在別にある物を一つにまとめるのは難しいことですが、 今回の経験を活かせたらと思います。
・機会があったら紹介したいと思います。
・周囲にはいろんな人がいるが、 いろいろな考えを認め共存して生きていく。
・大いに活かせると思います。

第一分科会「地域づくりの方向性」

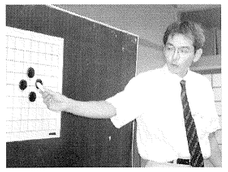
・ふれあい囲碁についてもう少し奥を知ってみたいと感じた。
・時間不足で討論が十分でなかった。
・交流会の参加をしていなかったが、世代を超えた人間関係が出来た様子で勉強になった。
・ 地域の広まり方や、 地域の実情がそれぞれあるなぁと思った。
・ もっと講師の方のお話が聞けるかと思っていた。 でも参加者の実践していることやお悩みも聞けてよかった。 もう少し時間配分をきっちりした方がよかったのでは？
・終了時間際の参加だったのでよく分からなかった。

第二分科会「人とかかわる力」

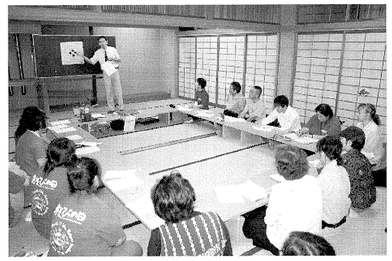
・人と関われる力。
・ふれあい囲碁がもっと障害者施設でも盛り上がってもらいたい。
・ふれあい囲碁を通して、 人としての関わり方を聞かせていただきとても役に立ったと思う。
・コミュニケーションのための活動に役立つ。
・実際に活用されている方の話を聞けて興味深かった。 いろんな使い方や様々な場で活用出来るようなので、 身近な家族や地域で使ってみたいと思った。
・スタッフにボランティアの方が多いのにビックリした。
・ぜひ子供と一緒にしてみたいと思う。

・お二人の先生のお話がとてもよかった。
・はじめて子供たちをつれての参加でした。 大勢の人の中でやや興奮気味の子供達でしたが、 今日はじめて会った方に話しかけられたり、 碁石が取れると 「やったー！」 「取れたね！」 とほめられて “自分を認めてくれた” 事を喜んでいました。 セットを頂き家庭で親子のふれあいになればいいと思っています。

第三分科会「ふれあい囲碁の実践方法」



・話がとても分かりやすく参考になった。 印象に残ったこと、 ふれあい囲碁の目的 ・ 人間関係etc
・ 囲碁の知識が全くなかったので午前中の体験では初め不安もありましたが、 実際にやってみてまた分科会に参加してルールにとらわれなくても大丈夫なのだと感じました。 ただ、 施設のゲームとして扱うにはやはりある程度のルールを作り楽しいムードで終われた方がよいのかなと考えました。
・よりよい人間社会のあり方を考えるきっかけになったと思う。
・ 何も分からず参加しましたが、 午前の部の会を通じ、 分科会を経て、 いろいろな人がふれあい囲碁に参加し楽しんでいることが分かりました。 自然な感じで人間関係が得られる感じがして、 この活動をもっとたくさんの人に知ってもらえたらと思いました。



・ルールの作り方等、 先生のお話している事を理解している人としていない人がいた。 楽しく開催してほしいと思っていたので、 少し悩みました。
・午前の部を交えてのお話と人間関係について、 興味深いお話でした。 囲碁を通してのふれあいや気持ちの大切さが分かったように思います。
・子供達や地域とのかかわりを考えながらこれから先のやっていく為のことを教えていただきました。
・本日は多くの人と知り合える機会を得て大変よかった。 またの会がある時は必ず参加希望と意見があり、 その言葉を聴いて心より嬉しく思った。
・最初楽しむ事をまず頭にいれて参加を皆さんに勧めていきたいと思います。
・ 囲碁は分からないけど、 ふれあい囲碁なら出来そうです。
・今後の社会においてふれあい囲碁を通してかかわっていきたいと思いました。
・ “ふれあい囲碁” の目指すものが理解できました。
・人とのふれあいが大切だと思いました。
・いろいろな人がいる場で親しくなる為に役立ちそうだと思いました。 同じ目的で同じグループに所属し日ごろからよく分かっている間柄の人達には効果的なのかなと疑問が残りました。
・ ふれあい囲碁は人間関係を映す鏡。 キーワードは 「受容」 ですね。
・ 講話を聞きながら、 ふれあい囲碁の基本は地域づくり ・ 人づくりを大切にする活動だと感じた。 少しくらい囲碁の知識も役立つだろう。